

## 4－4．ＣＴ検査 ～心臓ＣＴ検査について～

心臓ＣＴ検査では、心臓を栄養する血管（冠動脈）の状況を調べます。



造影剤を腕の静脈から入れながら心臓を撮影します。撮影時の心拍数が少なく、冠動脈が十分に広がっている方が、きれいな画像が出来上がります。そのため、検査時に心拍数を少なくする薬（ベータ遮断薬）を血管内に投与したり、冠動脈を広げるニトログリセリンを口の中に噴霧をすることがあります。また、呼吸による動きも検査の妨げとなりますので、撮影前に、数回の息止め練習を行います。（息を止める時間は約 10 秒）

### 1. ベータ遮断薬について

ベータ遮断薬は、自律神経の働きを抑え、心拍数を少なくして、血圧を下げる薬です。高血圧や狭心症などの治療に広く用いられている安全性の高い薬です。検査の途中に心拍数が 65 を超える場合、血管内に投与することがあります。ただし、気管支喘息や心機能低下（心不全）の方には使用できません。ベータ遮断薬の副作用としては、過度の脈拍低下および血圧低下、心不全などの循環器系の症状、めまい・けん怠感・眠気・頭痛等の精神神経系の症状、発疹等の過敏症状、息が苦しくなるなどの呼吸器系の症状、吐き気などの消化器系の症状等が、僅かながら生じる恐れがあります。

### 2. ニトログリセリンについて

冠動脈を広げる薬です。検査の 5 分前に口の中に噴霧します。心拍数が少し早まり、動悸を感じることがありますが、5 分くらいで落ち着きます。

### 3. 造影剤について

腕の太い静脈から入れて、心臓の血管を見やすくします。注入後、身体の内側から熱感が生じますが、心配ありません。

糖尿病の方で、病院（他病院含む）からお薬をもらって飲んでいる方は、飲まれているお薬の種類によっては、一時的にお薬を飲むのを中止していただく必要があります。

【造影剤の使用で起こる可能性がある副作用】

- ・軽度（100 人に 5 人以下）・・・吐き気、かゆみや発疹など
- ・重症（2 ～ 3 万人に 1 人）・・・呼吸困難、意識障害、ショックなど
- ・極めてまれに、病状や体質によっては死亡することもある。（40 万人に 1 人程度）
- ・遅発性の副作用・・・検査後数十分～数日後に遅れて症状（軽度なもの）が起こることがある。

※ 食事については、朝食は通常どおりに食べていただき、昼食は軽食をお願いします。

＜心臓の血流不足と狭心症＞

心臓を栄養する血管（冠動脈）の内側が部分的に細くなると、心筋への血流が悪くなるために、一時的な胸の痛みを感じるようになります。このような状態が起こることを狭心症といいます。

運動をしたり、階段を上ったりすると、心臓の筋肉はたくさんの酸素を必要とします。このような、心臓に負担がかかったときに胸の痛みを感じる場合、狭心症かもしれません。

将来、心筋梗塞へ進行する可能性がありますので、上記の症状が続くようなら、一度病院を受診してください。